

スマイルタイムズ

No, 203

続・出生前診断について

学習

本紙200号(平成24年11月27日発行)に院長の「出生前診断について」という文を掲載しましたが、今号ではそのことの詳細について記述します。何らかの参考になれば幸いです。

出生前診断の臨床研究がこの三月、全国各地で始まります。例えば東京ですと・国立成育医療センター・大森赤十字病院・東邦大学医療センター大森病院・慶應義塾大学病院など60院以上で。しかし、中部では名古屋で6院、関西になると京都、大阪、神戸などで6院ほど、北陸の福井、富山、石川3県の医療関係施設ではおこなわれません。

この診断は従来、妊娠15週以降に、妊婦のお腹に針を刺して羊水を採取する方法が採られてきました。しかし、この方法ですと300人に一人くらいの割合で流産の危険性がありました。ところが妊婦の血液だけで胎児の染色異常を調べる方法は、妊婦や胎児への負担が軽かつ精度が高く、ダウン症や心臓病などの可能性を調べることができます。

しかし、受ける目的もその後の選択も妊婦自身が決めなくてはなりません。「命の選別」が始まるとの指摘も起きますが、妊娠、出産、育児、将来への展望などを一人背負う妊婦の意志、決断は尊重されるべき、という考えも起きて来ます。

この新しい診断は妊婦の血液に含まれる胎児の遺伝子(DNA)から、染色体異常を調べるものです。妊婦10周から検査可能で、日本産婦人科学会は運用指針として、35歳以上であることや過去に染色体異常のある子どもの妊娠、出産経験がある女性の中の希望者に限りました。

「陰性」的中率が99%、「陽性」的中率は95、3%となっていますが、「陽性」の場合は確定のために次に羊水検査を必要としています。新しい検査で「陽性」であるから、羊水検査をすることになり、そこで先述した300人に一人の流産の危険が伴っても、容認されることになるでしょう。

振り返りますと、羊水検査は十分な議論がないまま浸透し、産婦人科医師は悩みながら実施して来ました。だから、当紙200号で院長が書きましたように、この新しい検査(妊婦の血液だけで分かる)が拡大していく時、安易に中絶などに走り、善悪の判断が出来ない環境が出来てくることに対する懸念が生じます。

小学生のダウン症の息子を育てているある母親は
“上の二人に異常がなく出生前診断は受けなかった。出産直後

平成25(2013)年 2月22日(金)発行
発行者 小浜市多田2-2-1 中山クリニック 院長 中山茂樹
<http://www.nakayama-clinic.jp>

... ..
は検査を受けなかったことを悔やみ、陽性の判定が出ていたら中絶を考えたでしょう”と言いながら“しかし、息子は欲がなく天真爛漫で実に可愛い。でも産んだことのない人にはこの気持ちは理解できないでしょう”とっておられます。

日本産婦人科学会は妊婦の決断を支えるのに専門知識を持つ医師らによる遺伝カウンセリングの重要性を挙げています。しかし、「遺伝カウンセリングは必須だが、それが妊婦の意思決定できる十分条件ではない。出産や中絶に家族や医療関係者が圧力をかけない社会的な合意がいるのではないか」という意見もあります。難しい説明ですが、要するに医者や親戚縁者、隣近所が生まれた子供のことをとやかく言わない環境が必要なのではないか、ということなのです。

ちなみにこの費用は十万円くらいになりそうです。

(松井)

花粉症の初期療法

そろそろ花粉情報が発令される季節になりました。花粉症とは空中に飛散したスギ、ヒノキなどの花粉に対して、鼻の内側の粘膜が過剰に反応することによって起こるアレルギー性の病気です。

症状を軽くするためには、花粉情報を参考に飛散量の多いときにはなるべく外出を避け、マスクや眼鏡などで少しでも花粉が体内に入らないようにしましょう。医療機関で行われる治療方法には花粉が飛び始める2週間前から始める「初期療法」、症状が現れてから始める「導入療法」、これらで症状が抑えられた状態を保つ「維持療法」があります。

症状に応じてアレルギー反応を抑える内服薬や点鼻薬などが処方されますが、毎年、症状が重い人には「初期療法」がお勧めです。今は眠くならない、効き目が早いなど、さまざまな薬があります。(「日医ニュース」No380 1/20号より)

[余話] 2/19の新聞経済面に2011、12年、2年続きで1円硬貨が1枚も製造されなかった(販売目的の貨幣セット用を除く)と報道していました。思えば20数年前には流通する1円玉の不足で、金融機関の職員は親族縁者を頼り、1枚でも1円硬貨が家の引き出しなんかに残っていないか、尋ねて回っていたものです。1円玉が要らなくなったのは電子マネーやICカードの普及によるものということなのです。時代の変遷を如実に示す出来事のように。

... ..

《あとがき》当院、ミニギャラリーはこの2月より山本美代子さん(若狭町小原)の押し花です。子育てや家事からやや手が離れてから福井市の石井先生に押し花を教わってより、若狭町の奥本みさおさんに更に続けて教えを乞うて、腕を磨かれました。紅葉やすすきの葉っぱや、牡丹や菊の花弁を組み合わせて張りつけた造形の美しさをお楽しみ下さい。